

福 井 県 医 師 会

だより

第684号 平成30年(2018)6月



ヒサマツミドリシジミ

福井市 左合 直

表紙写真説明：ヒサマツミドリシジミ 2017年6月23日 あわら市 福井市 左合 直

ミドリシジミの仲間では本種は食樹や生態の解明が1970年と遅く、長らく「謎の蝶」と言われた稀少種だった。生態の解明により決して少ない種ではないことが判明したが、今でも野外で撮影することは非常に難しい蝶である。当時の昆虫少年の私にとっては未だに「ヒサマツ」という言葉には特別な畏怖のようなものがあるが、そんな蝶が県内にも生息しており、しかも活動は午後3時過ぎとなれば、平日でも仕事を手配して会いに行かずにはいられない。

## 醫 縫 録

# 医療関係者の現状

医療関係者担当理事 宮 崎 茂 則



昨年6月に県医師会理事に就任して医療関係者担当理事を担当することになりました。主に医療秘書、看護師に関わる担当ですが、今まで本分野に携わったことがなかったこともあり、この約10ヶ月間で勉強をさせていただきました。

最近、医師の負担軽減と効率的な医療提供のため医療秘書の設置が求められています。昨年9月に開催されました全国医師会医療秘書学院総会に出席したところ、日本医師会が認定する医療秘書の学校は全国で13県・15校しかなく、医療秘書が国家資格ではないために資格認定を受けられる団体がたくさんあるようで、日本医師会認定医療秘書のブランド力を向上させるため医師会会員が積極的に日医認定医療秘書を優先して採用する体制を作り、出来れば診療報酬の裏づけも欲しいと話がありました。今年度で10,261名が日本医師会認定医療秘書として世の中に出ており、日本医師会としては1人の医師に1人の医療秘書を配置できるように頑張っていこうとの話もありました。福井県では大原学園で医療秘書を育成してもらっていますが、平成29年度で32名の卒業生が、平成30年現在は24名の学生がいます。少子化で人口が減っていることや高校生の就職率が高く、進学だと県外に行く人も多いため、県内学校への進学率は減少してきているようです。大原学園では介護福祉科もありますが、介護福祉士の現状についても総会で話がありました。昨年度は32名定員のうち6名で2名が外国の方です。外国の方ですと日本語のレベルN2は欲しいですが、N3～4レベルで入って来られる人が多く、日本語を教える事も含めると時間が足りないとのこと。平成30年度は18名予定のうち6名が外国の方で、施設で働きながら通学していくようです。介護職員は補助がついているので現在3K（きつい、き

たない、給料が安い）ではなく、医療秘書は業務の割に給料が安いのが現状のようです。

ナースセンター事業では、看護師で未就業者の就職支援や研修、また中学・高校生に対して啓発事業等を行っております。昨年度の看護師の求人数676人に対して求職者数224人と需要と供給のバランスが3倍の格差があります。理由としては勤務条件が合わないことです。働きたい人は外来で非常勤希望が多いですが、求人側は夜も働いてほしいという希望がありギャップがあるようです。医師は事業主が多く情報が欲しいので医師会に入ることの利点がありますが、現在福井県看護協会に在籍している看護師は53%で、看護師は情報がなくても仕事ができれば良いので加入率が低いようです。全国で比較しても同様の傾向であり、福井県はちょうど平均的な位置にあるようです。これに対しては看護協会もアピールしていきたいと話していました。昨年度から大きい病院では新人看護師も就職できなくなってきました。診療所、中小病院では新人看護師ではなく即戦力の看護師が希望なので、その結果、県外に流出することを防ぐため、現状を把握して対策を立てないといけないことも今後検討が必要です。

各職種で現状を把握すると問題点が出てきて、私も約10ヶ月でなんとなく分かってきた状態です。今後、大原学園やナースセンター事業の関係者、医師会会員からの協力のもとに改善していけるよう尽力致しますので、ご協力をよろしくお願い致します。